宇仁郷通信

No.106
平成 30 年(2018) 4 月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 （編集:情報部会）

歴史関係書籍の寄贈について

引き取り作業に集まった人達

郷土史研究の第一人者であり、大きな業績を残された故吉田省三先生（田谷町出身）の蔵書全てを、宇仁郷歴史資料館が寄贈を受けました。先生のご親族吉田 達氏（加東市）のご好意に心より感謝を申し上げます。

引き取り作業は、2月4日にまちづくり協議会の役員と宇仁小学校PTAの協力により総勢19人で、加東市秋津にある先生のご自宅より宇仁郷歴史資料館まで搬送して収納しました。

収納された書籍

今後は蔵書を分野別に整理し、吉田省三記念文庫（仮称）として、宇仁郷の皆さまのみならず、東播･北播の方々にも歴史の研究や読書の場所として提供する計画をしています。

なお、この書籍の分類と整理作業に手間と時間が必要ですので、皆様方のご協力をお願いしたく思っております。日曜日（日時はまだ決定しておりません。曜日のみ日曜日と決定しております。）の半日程度のボランティアでお手伝いいただける方を募集しています。

作業内容は、

① 書棚より書籍の移動作業
② 分野別に本の背にシールを貼付
③ パソコンへの入力作業　等のいずれかの軽作業です。

ご協力いただける方は、後日区長様より回覧される申込書にご記入ください。よろしくお願いいたします。

（宇仁郷歴史資料館部会）

ふれあい喫茶ギャラリー開催

宇仁小学校旧校舎がふれあい館に戻ってきました❢❢　2 月 24～25 日繁田 薫展を開催！ 宇仁っ子が真剣に取り組んでいる運動会の様子、玉野の堤防に見事に咲いた桜、可憐に咲いたコスモス、夏の太陽に向かった大輪のひまわり、匂いがここまで漂っているような八鹿の八寸藤、7 年前ニアミスで帰って来られた震災 3 日前の仙台市……。でも作者はあの時買ったキャラメルを未だに食べることが出来ないそうです。

どれも繊細な筆運びと色使いで、見る人たちの目を釘付け!!

次は何を描きますか？ また観せてくださいね。

（ふれあい交流広場部会）

兵教大ボランティアステーションに参加して

協議会は、地域活性化活動の一環として、さくらまつりやコスモスまつりを開催し、また各種団体との交流にも取り組んでいますが、回を重ねるとイベントもマンネリ化に陥ります。そこで視点を変え「若い学生とのコラボ」で問題を解決していこうと試みています。

主として協力してもらっている兵教大の学生ボランティア達は、現在「不登校の子どもたちを、どう指導し“ふつうのこども“に戻すのか」に心血を注いでいるのですが、多忙な中での地域とのコラボは、イベントを活性化させるだけでなく、彼らにとってもよい経験になり、きっと問題解決への糸口にも繋がる貴重な「交流体験」になると推察します。「人口減の現実に立ち向かい、熱意をもって不断に努力する地域の人々」との交流が、視野を広げるとともに、実践で「問題解決」の力となるでしょう。

（事務局）

本年度の宇仁っ子ふるさとガイド隊が披露されました

本年度の宇仁っ子ふるさとガイド隊は、4 年生（4 月より 5 年生）により結成されました。

2月23日（金）午後 1 時 30 分、八王子神社前から隋神門、本殿、拝殿、幣殿、鏡山古墳、内山記念碑の順に説明し、長い文章を正確に暗記してガイドしていました。参加者はPTAの父兄とまちづくり協議会の役員等15人でしたが、全体の人の動きを把握しながらガイドしていたのは大変立派でした。

ご指導頂いた、仁尾校長先生、山本先生に敬意を表します。　（宇仁郷歴史資料館部会）

今年の里山整備作業が終了しました

ツリーハウス

今年の作業は、各町の協力をいただき、2月毎週日曜日に実施し、事故もなく終了しました。ご協力ありがとうございました。

この里山事業は、兵庫県の補助を受け「里山ふれあい森づくり住民参画型」によって平成21年度から25年度までの5カ年計画で八王子神社鏡山境内林を整備し、平成26年度からは国が薦める森林・山村多面的機能発揮対策事業で現在4年、合わせて9年、平成30年度で10年となります。

課題は、どのように里山として再整備していくか、鏡山全体をどのように整備していくかなどです。年度ごとに県、市の助言・支援や町民の皆さんの協力を得て、伐採した樹木の運搬搬出、搬出した材木の利用、伐採後の再生、常緑樹や落葉樹・花木などが混在していて、季節が現れる森、桜や紅葉の並木道など、1年1年の小さな作業の積み重ねで、10年ごとに変わっていく森を創造して行きたいと思っています。

また、近畿の学生たちが里山で地域活動する拠点づくりに協力し、現在、鏡山里山入口でツリーハウスをつくっています。今年4月8日のさくらまつりで、ひとまず、完成披露をする予定です。　（里山ふれあいの森部会）

宇仁郷歴史資料館だより　④-1 近・現在の宇仁郷

(1) 明治の夜明け

ペリー黒船

今から 150 年前江戸時代の末期、幕府が外国と結んだ通商条約の不平等問題で国論が分裂し、諸外国から開国の要求が強くなる中、国内からも国の統治の在り方について薩摩・長州・土佐藩から近代国家を模索する動きが出始め、坂本龍馬の新しい国造りを説いた「船中八策」を契機に倒幕に動く薩摩・長州藩の「薩長同盟」の成立で我が国は大きく揺れ動きました。それが「大政奉還」に至り「明治維新」が始まりますが、わずか 20 余年で日本は近代国家の骨格を固めていきます。

(2) 船中八策

船中八策

坂本龍馬が慶応 3 年（1867）6 月藩船「夕顔丸」に乗船し長崎から兵庫に向かう船中で、土佐藩士後藤象二郎に八項目の政治綱領を見せました。

坂本龍馬

それは、①大政奉還　②議会開設　③官制改革　④条約改正　⑤憲法制定　⑥海軍の創設　⑦陸軍の創設　⑧通貨政策でした。後藤象二郎はいたく感銘し土佐藩主の同意を得て、意を同じくする各藩の重臣と 10 月 3 日幕府に大政奉還建白書を提出します。

＊船中八策は、後に成立した新政府の綱領の実質的な原本となった。

開館日　第1・3日曜9時30分～12時